

あせりにがらえられた「一企業一組合」の破産攻撃を許さな

国鉄をめぐる攻防が最大の局面に突入している現在、政府・国鉄当局は最大の狙いである労働運動の解体、「一企業一組合」の破産状況の中で、焦りかられ不当労働行為などの手段をもって組織破壊攻撃をかけてきており、動労千葉は、この不当極まりない選別・組織破壊を許さない組織の団結・強化にむけた「二・一〇動労千葉団結集会」を開催することを決定した。すべての組合員が総結集することを訴える。

差別を「要求」する「改革協」

国鉄当局は、一月二八日、回収した「意志確認書」の集計結果を発表した。それによると「新会社への希望者数が定員枠をわずかに上回るだけで、ほとんど新会社へ」などと新聞報告される内容となった。

この事態に、御用組合「改革協」は当局に志摩（鉄労）、福原（動労）名で次なる「緊急申し入れ」を行った。

① 国鉄改革に敵対している者まで新事業体に移行せざるを得ない状況は経営基盤を揺り動かしかねない。

② 二万五千の採用枠そのものは是非を含めて正直者が馬鹿をみない対処方を要求する。

採用にあたって所属組合や、分割・民営化に反対する労働者を差別しろ、二万五千の採用枠の縮小をしろ、「国鉄改革」に協力してこなかった職員は採用しても三万人の余剰人員の枠に含めろ、などとも労働組合として認めがたい「要求」を行っているのだ。

マル生「一企業一組合」は破綻

分割・民営化の狙いは国鉄労働運動解体にあったが、その目論見は、動労千葉の闘い、国労の職場・生産点の闘いによって完全に破綻した。

当局と一体となった「改革協」の「一企業一組合」論は、「どうしてもダメならまた分裂しても仕方ない。しかし、今は一緒にやろう」の志摩発言に示されるように労働者の犠牲のうえに延命しようとする野合集団による「一企業一組合」は破綻する運命であることは確実である。

労働者の団結が勝利のカギ

ましてや、大量の労働者が失業する時代に突入し「改革協」が目指す「労使協調」でも雇用・権利が守れないことは全労協・労組によってはつきりした。新会社の劣悪な労働条件、国鉄問題の未解決などは労働者への攻撃として襲いかかってくることは必至だ。目の前にぶら下げられた「雇用」に飛びつくのか、それとも労働者が団結して、その攻撃と闘いぬく労働組合へ結集するのかが問われている。労働者の団結が勝利のカギであることがますます鮮明となっている。

二・一〇動労千葉団結集会に総結集せよ。

2.10 国鉄労働者団結集会  
千葉市市民会館  
2月10日 午後7時

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉碎！

2.10 動労千葉 団結集会 総決起

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！